

# 日本看護歴史學會 會報

日本看護  
歴史学会  
第79号  
2023年1月15日

## 年頭所感

日本看護歴史学会理事長 丸山マサ美



丸山マサ美 理事長

令和5(2023)年、  
謹んで新春のお慶  
びを申し上げます。

本学会会員の皆  
さまには、新型コ  
ロナウィルス感染  
症(第8波)With  
コロナ時代を上手  
く乗り越えておら  
れる事と存じます。

第36回学術集会は、第35回に続き、コロナ禍開催を余儀なくされましたが、『オンデマンド・ライブ配信』に加え、会場での『対面』も用意され、諸般の事情から情報発信の遅れが反省されましたが、貴重なご講演を拝聴し、意義深い学術集会でございました。関係各位の先生方、また直接、会場にてご尽力を賜りました大会関係者の皆さまに心より敬意と感謝を申し上げます。本学会は今年37年目を迎えました。最近では、貴重資料許諾に対する問い合わせや学術誌購入希望の方法等、本学会

に関心を寄せてくださるご連絡が多くなりました。本学会HPからの入会システムも構築され、学会運営の在り方も転換期を迎えているように存じます。皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。本学会の弛みない活動と貴重な研究成果は、これからも優れた質に期待が寄せられ、発展を続ける事でしょう。さて、コロナ時代は、いつまで続くのでしょうか。会員の皆さまの安全を第一に、また会員の皆さまとの距離を近く安心できる合理的な学会運営を模索して参りたいと考えます。日本看護系学会協議会・六史学会(日本医史学会、日本獣医史学会、日本歯科医史学会・日本薬史学会、洋学史学会)・地方研究会からのご案内等、学会HPにも、時々お目通しいただきますと幸いです。今後とも本学会への深い愛情と円滑な学会運営へのご指導をお願い申し上げます。皆さまの益々のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 第36回学術集会シンポジウム『東大看護の多様性』を終えて

第36回学術集会長 矢野正子・丸山マサ美理事長

第36回学術集会1日目、東大で看護資格を得てからの多様な人生、生き方が、座長 田村やよひ先生(日本訪問看護財団理事長)の進行で、演者 川村佐和子先生(聖隷クリストファー大学名誉教授)、林田賢史先生(産業医科大学教授)、丸山孝典先生(東京都港区議会議員)、池田真理先生(東京大学医学系研究科家族看護学教授)が、ご講演されました。

第1題『実践を制度化する』川村先生は、衛生看護学科5回生(1957年入学し1961年卒

業)。学生時代は、日米安保条約の締結時期、学生は第2次世界大戦での学徒動員を思い起こし、反対運動が盛り上がり、セツルメント活動と原水禁の運動、そして安保反対運動、それにウイルス学の教授から実験担当下請けのアルバイト生活。卒後は、横浜市の保健所で保健師として就職し、3年間ほどで退職し、母校の疫学教室、山本俊一教授の下で技官として働き、その頃、当時は東大神経内科におられた井形昭弘医師たちと共に多数のスモン

患者に出会い、その自宅を訪問し看護を実践されます。1967年5月にスモン訴訟を提訴され、その5カ月後に難病対策要綱が制定され、要望書提出後5年間もたって、やっとその実現に至った中で、1969年に患者組織、全国スモンの会の立ち上げに参加して、副会長、事務局長を務め、全国スモンの会の運動には衆議院の予算委員会に要望書を提出。原因究明と治療法の開発、専門医療機関の設置と患者・家族の生活障害の軽減というテーマにより、2020年、難病患者看護の実践と訪問看護の開発を理由に『山上の光賞』を受賞されました。

第2題『看護（学）における複合的視点の重要性』林田先生は、1991年東京大学教養学部理科Ⅱ類に入学後、1993年、医学部保健学科に進学、1995年卒業。現在、産業医科大学病院の医療情報部長。学生時代は『保健管理学』に関する制度・政策について興味を覚える中、研究に利用可能な医療に関するデータがほとんどない事に驚き、大学卒業後修士課程進学と共に、社会保険中央総合病院に看護師（1年間期限付き）として就職。修士研究では、卒後研究をさらに深める研究に実施する過程でも、医療に関するデータがほとんどない事を痛感し、医療分野のIT化に尽力されました。修士課程修了後は、IBMに入社。医療関係の部署配属により、病院の職員から現場の要望を聞き、それに適したシステムを構築・開発する仕事に従事されました。その後、医療全般に関するデータが利用可能になり始める中、博士論文を執筆され、京都大学や現職の教員になりました。看護のデータ、主に医療行為等のビッグデータであるDPCデータを用いて、診療・経営・医療制度や政策の質向上に資する研究に着手されていますが、場におけるEBNや制度・政策におけるEBPM/EIPM等は、看護に関するデータが充実していない事を理由に発展途上の段階である事を指摘されました。東大看護（保健学）を学んだ中での収穫は、『多様性に富んだ環境の中で大局的な視点から物事をみるという事』に若い時から触れる事ができたと語られました。

第3題『東大看護の多様性と私』丸山先生は、現在、2期目の区議会議員（港区）。平成5年、

東京大学の理科Ⅱ類入学後、平成7年、東大の健康科学・看護学科に進学され、平成9年、東京大学の健康科学・看護学科大学院修士課程入学。平成19年、創価大学の法科大学院入学後、3年で修了。平成27年、港区議会議員として初当選され、現在2期目。東京大学大学院入学後、すぐ休学し、虎の門病院に勤務。男性看護師は、珍しい時代であり、虎の門病院では、男性看護師1号との事。法科大学院卒業後、司法試験を受けながら北里病院に勤務し、合計で17年間ほど臨床経験を現在に至っておられます。1年生と2年生の時、理科Ⅱ類と理科Ⅲ類は一緒に教養課程を学び、その時に理科Ⅲ類の医学科の人たちが大変素晴らしく、キャンパスで勧誘された障害者の方の所属した東大サークルとの出会いが、人生の大きな分岐点となられ、障害者の自立生活・介助に触れる仕事に就きたいと、臨床17年目に区議会議員に出馬・当選されました。

第4題『自分自身の中にある多様性』池田先生は、東京大学大学院医学系研究科家族看護学教室の主任教授です。5年間、米国に暮らした幼少期の医師、看護師とのかかわり、例えば、一般家庭医（PCP）は、専門医を必要としない程度に診療する事、一回の診療時間が最低でも1時間といった丁寧な診察である事を語られました。大学、駒場時代に、印象深い見藤隆子先生の看護概論に触発された事。結果としては、卒後は、メーカーへ就職し、厚生省看護課での保健師助産師看護師法を所管し、看護基礎教育全般を担当と共に、看護の立場から制度設計を行い、未来に向けての政策を考える仕事に従事されました。3年後、人事異動し、保険局医療課に移り、現実の世界で、医療資源をどう配分（診療報酬・介護報酬）するかという問題に着手。（中略）。ケアする心の基礎を東大看護で学び、学生時代は、実際にケアを提供する場を経験し、会社に就職して健康に寄与するモノというサービスを売る仕事につき、ふたつは全く違うように見えるが、実は、本質では似ていると語られました。

以上のような多様な人生について、語られました。詳細は、講演集をご高覧下さい。

## 日本看護歴史学会第37回学術集会のご案内

## 日本の近代化と看護 ～看護は何を未来に繋ぐのか～

日 時：2023（令和5）年8月11日（金）・12日（土）

会 場：国際医療福祉大学小田原保健医療学部 本校舎（神奈川県小田原市）  
現地開催

大会長：鈴木 紀子（国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科）



鈴木紀子学術集会大会長

## 1. 参加へのお誘い

第37回学術集会のテーマは、「日本の近代化と看護 ～看護は何を未来に繋ぐのか～」です。教育講演では私たちが歴史を見る視点、歴史から何を学ぶのか、そのような講演をして

いただける歴史学の専門家、研究者の先生方をお呼びしました。2日目にはシンポジウムを企画しています。コロナ禍で臨地実習ができない中、「看護の技を未来に繋げる」をテーマに、川嶋みどり先生を中心に、特に看護技術を大切に教えている方にシンポジストになって頂く予定です。

開催方法については学会ホームページと初回パンフレットで現地開催＋オンデマンドとアナウンスしておりましたが、検討の結果、コロナ感染拡大の不安がなくなったわけではありませんが、**現地での開催のみ**といたします。会場は神奈川県小田原駅から徒歩3分にあります国際医療福祉大学小田原キャンパス本校舎です。大学からは小田原城が良く見えます。暑い盛りでの学術集会開催になりますが、是非、小田原観光、足を伸ばしての熱海、箱根観光も計画頂きながら、多くの方にご参加いただき、看護歴史について語り、交流を深め、活気ある学術集会になることを願っております。皆様の参加を心よりお待ちしております。

日本看護歴史学会第37回学術集会大会長  
鈴木紀子

## 2. プログラム

(1日目予定)

- 大会長講演：「日本の近代化のはじまりと看護の発展」
- 教育講演Ⅰ：「歴史に向き合うー記録の意味を問う」  
黒沢 文貴先生（元東京女子大学教授）
- 教育講演Ⅱ：「箱根病院の軌跡ー医療・看護の発展に繋がる道」  
小森 哲夫先生（国際医療福祉大学小田原保健医療学部学部長）
- 教育講演Ⅲ：「戦争と精神医療」  
中村 江里先生（広島大学大学院准教授）
- 教育講演Ⅳ：「看護教育教材・方法の変遷」  
岡本 華枝先生（岐阜聖徳学園大学准教授）

(2日目予定)

- シンポジウム：「看護の技を未来に繋げるーコロナ禍で臨地実習ができない中、看護技術をどのように学ばせるかー」  
シンポジスト 川嶋 みどり先生（本学会理事、医療法人財団健和会臨床看護学研究所所長）他

## 3. 一般演題申込要領（演題登録・抄録提出）

■一般演題登録・抄録提出期間：

2023年3月1日（水）～5月28日（日）

発表方法は、口演・示説・紙上発表です。口演は発表時間15分、質疑応答5分、示説は発表時間10分、質疑応答5分です。申し込みをされる方は、第37回学術集会ホームページの演題登録よりお申込みください。発表者および共同研究者は、いずれも本学会会員に限ります。発表を希望される方は、日本看護歴史学会ホームページにアクセスして、2023年4月末日までに入会申込みをお済ませください。また期間内に、参加費の事前納入および参加登録もお願いします。

#### 4. 参加登録および参加費

##### ■参加登録及び事前申込期間：

本学会は現地開催です。事前申込期間は、2023年3月1日(水)～7月22日(土)です。それ以降は当日受付となります。

参加費	会員	非会員	大学院生	学生
事前申込	8,000円	9,000円	—	—
当日受付	9,000円	10,000円	2,000円	500円

参加登録と参加費支払いは、学術集会のホームページの所定の様式から申込みをして下さい。

第37回日本看護歴史学会学術集会事務局  
国際医療福祉大学小田原キャンパス  
〒250-8588 神奈川県小田原市城山1-2-25  
Email: 37kanreki@gmail.com  
Tel: 0465-21-6736 富澤研究室直通

### 第13期理事・監事選挙の公告

2022年8月26日の総会で、第13期理事・監事の改選が確認されました。これにより「日本看護歴史学会理事および監事選挙規則」に基づき、本会報の発行日をもって理事・監事選挙公示日といたします。

投票期間は、発行日より2023年2月28日(当日消印有効)までとなります。投票用紙は別途郵送のものを使用し、理事(10名)・監事(2名)に相応しいと思う会員に印をつけ、投票所宛の封筒を使用し、無記名で郵送して下さるようお願いいたします。

#### 選挙管理委員会氏名

総会場で選出された選挙管理委員は次の通りです。

岡崎美智子氏 小田 正枝氏 金井 一薫氏(五十音順)

なお、規則により、選挙権は会費を(今回は2022年度)期日までに完全に納入した人、被選挙権は、入会3年を経過し、会費を完全に納入した人に与えられます。



\* ( ) 内は会員番号 2022年6月16日～11月16日

村口 孝子 (22013)	鬼頭 幸子 (22014)
内木 美恵 (22015)	川上 潤子 (22016)
砂田 晋司 (22017)	南 有紀 (22018)
野原 真理 (22019)	箭内彩也佳 (22020)
川村美香子 (22021)	清水嘉与子 (22022)



##### ■事務局から

##### 2022年度会員動向

(2022年6月16日～11月16日現在)

1. 会員数	295名
2. 入会者	10名
3. 退会者	16名

##### 編集後記

パンデミックにより苦しい暮らしを強いられている人も多いはずなのに、戦争や内紛は絶えず、アジアでも国家間の緊張が高まっている今日この頃。世界が平和でありますように。(か)

#### 日本看護歴史学会会報 第79号

企画・編集 川原由佳里(日本赤十字看護大学)  
黒田 裕子(太成学院大学)

発行責任者 丸山マサ美(事務局)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒812-8582  
福岡市東区馬出3-1-1  
九州大学大学院医学研究院  
保健学部門内  
事務局 丸山マサ美  
TEL & FAX 092-642-6710(直通)  
E-mail 2rekishi@med.kyushu-u.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>